

仲間と交流をしている人ほどスマホのセキュリティ対策を実施

株式会社 NTT ドコモ モバイル社会研究所

◆ポイント◆

- ・仲間や友だちとの交流頻度が多い人ほど何かしらのセキュリティ対策を実施。
- ・仲間との交流が多い人ほど「画面ロック」を実施する傾向。

1. 調査結果：

1-1. セキュリティ対策実施状況(仲間との交流頻度別)—交流頻度が多い人ほど対策を実施—

前回の 2020 年 1 月 31 日発出のレポートでは SNS を利用している人ほどセキュリティ対策実施率が高くなっており、ICT の利活用が進むほどセキュリティ対策を行う傾向を紹介しました。しかし、SNS 利用が活発な方は、人との交流の活発度合いも活発であり、そのような人がセキュリティ対策をしている側面もあると考えられます。

そこで本レポートでは、日々の生活で「仲間・友達と旅行・趣味の集まり、もしくは外食などの交流」をどの程度行っているかを伺い、交流頻度別に「スマホから個人情報情報が漏れたり、悪用されたりしないために、行っている対策」を集計しました。

その結果、「交流している」人ほど対策をしている割合が高くなる傾向がみられました。特に交流頻度が高くなるほど増加傾向にあった対策は「画面ロック」であり、15 ポイントほど差が見られました。

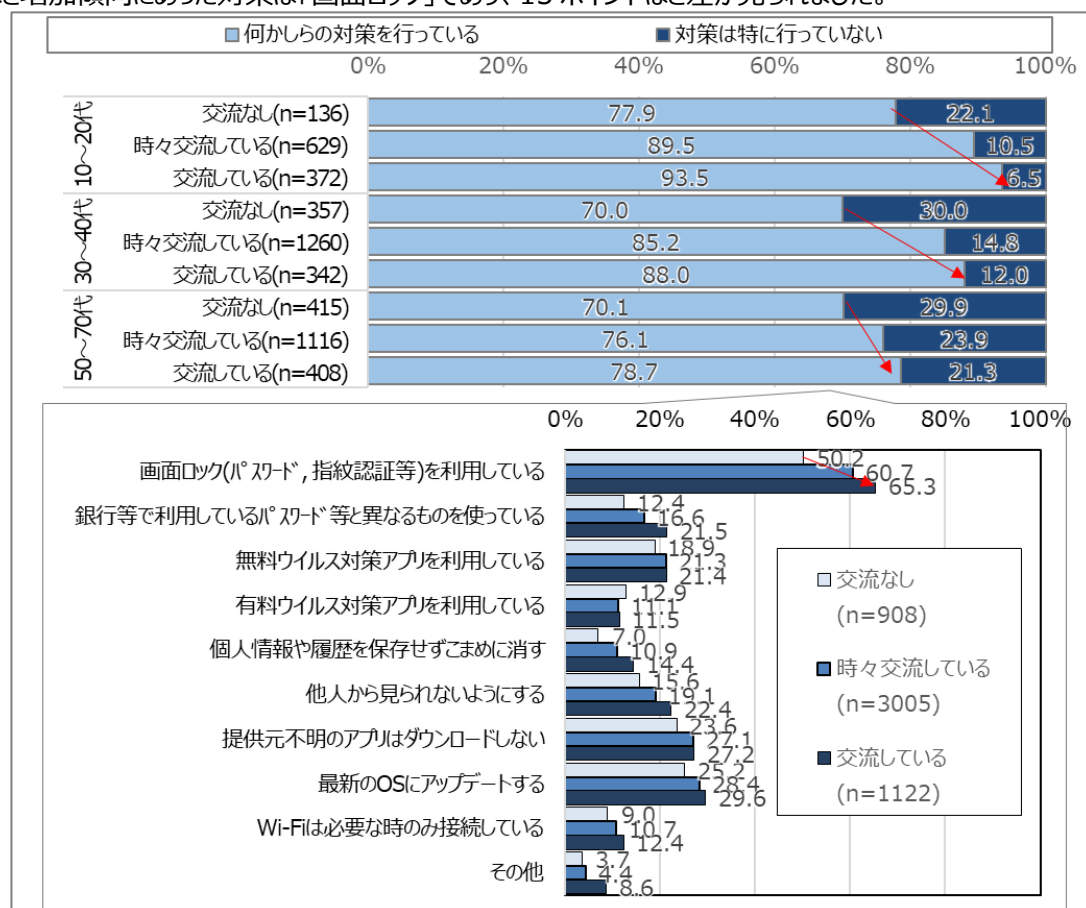


図 1. スマホのセキュリティ対策(仲間との交流頻度別)

[調査対象：スマートフォンを所有する全国の 15~79 歳]

1-2. セキュリティ対策実施状況(同居家族別)—同居家族の有無による差は見られない—

前項では、仲間や友人と交流している人ほどセキュリティ対策を実施している傾向が見られましたが、それでは、同居家族との交流によるセキュリティ対策実施状況への影響はあるのでしょうか。そこで、同居家族の有無

別にセキュリティ対策実施状況を集計しました。

その結果、同居家族の有無によるセキュリティ対策実施率の差は 5 ポイント未満となり、顕著な差はみられませんでした。大きな差ではないものの、比較的 10～40 代については、「同居家族あり」の人の方が対策を実施している一方、50～70 代は「同居家族なし」の人の方が比較的対策を実施している傾向が見られました。個別のセキュリティ対策の項目も同居家族有無による差は 5 ポイント未満でした。

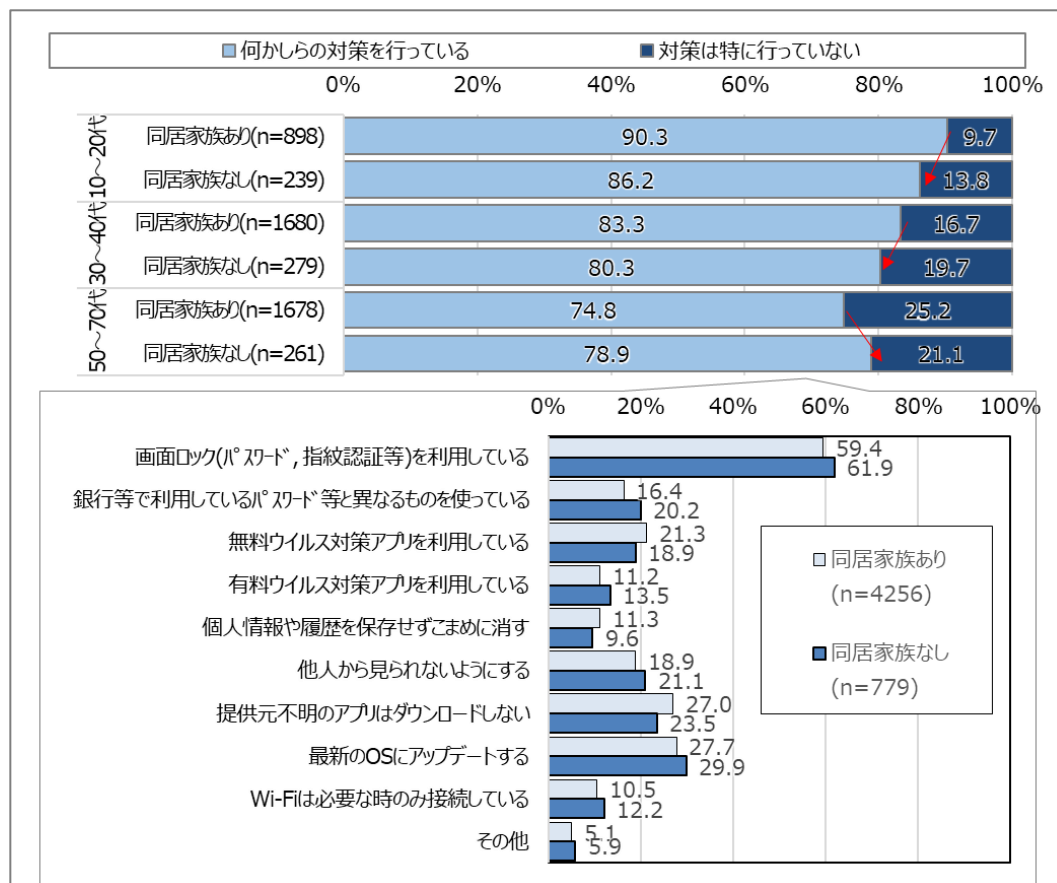


図 2. スマホのセキュリティ対策(同居家族有無別)
[調査対象：スマートフォンを所有する全国の 15～79 歳]

2. 調査概要 —「2019 年一般向けモバイル動向調査」—

調査方法	ウェブ調査
調査エリア	全国
調査対象者	15～79 歳の男女
標本抽出法	性別・年代(5 歳刻み)・地域区分のセグメントで日本の人口分布に比例して割り付け
有効回答数と調査時期	6,926(2019 年 1 月)

モバイル社会研究所では、安心・安全にスマホを利用いただくためのガイドとして、「トラブル事例に学ぶスマートフォン安心ガイド」や、様々な世代の方向けに「スマートフォンのマナーガイド」のご案内を下記の URL で公開しています。ぜひご活用下さい。 <<http://www.moba-ken.jp/publications/>>

■問い合わせ先

詳細なデータ、質問項目など、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社 NTT ドコモ モバイル社会研究所 msri-inq-ml@nttdocomo.com